

特集 神戸の家具② 神戸木工センター

神戸の家具のふるさと



垂水区多聞町小東山九七五の三五
電七〇六一五〇〇五

団地協同組合神戸木工センター

梅雨晴れの一日、団地協同組合神戸木工センター（理事長永田良一郎）を訪れた。国鉄垂水駅下車。関電前からバスに乗ること二十分。終点の木工センター前で降りると、広々とした敷地（五五、一二三平方メートル）に工場群が建ち並んでいる。入口の左手に組合共同事務所（事務局長藤川久弥）があり、ここには高等訓練校もある。

（概要）神戸市内の木工業者が集つて、昭和四十年に設立された通産省、兵庫県の助成指定団地。現在、組合員企業は三十四、従業員は七百。業種は木工家具、室内装飾、船舶木製装、家具木工が半数、他に取付家具製作工事、製材板類、木工機械販売修理、ガラス鏡加工販売、塗装、椅子張と幅広く、総て中小企業である。総事業費は約六億円。各企業の工場の他に、共同の資材倉庫や木材乾燥場、グランド、従業員の住宅（鉄筋五階建八戸）などが敷地にある。主な共同事業としては、（一）生産販売関係（木材乾燥、倉庫、共同受注）、（二）公害防止関係（大気汚染・集塵・悪臭・騒音・火災の防止）、（三）労務、福祉関係（初任給統一などの他、組合内での野球、バレーボール、ボーリング、運動会などの各種の催し）がある。また、来年より三年計画で、（一）倉庫の拡充、（二）保育所の建設、（三）共同受電、（四）工場の拡充、（五）共同食堂が計画されている。ここで働くのは、手づくりの『神戸家具』の伝統を今日から明日へ担う意氣に燃える人々ばかり。いわば、ここは『神戸家具』のふるさとなのだ。

ところで、組合員企業のなかに、その優秀な技術が認められて労働大臣賞が授与された三人の名工がいる。いずれもこの道五十年になろうという大ベテラン。次に簡単に紹介してみる。

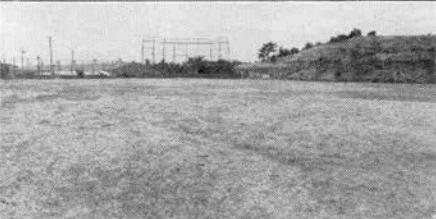
▲木工センター正面

▲高等訓練校が置かれている事務所

▲広々とした工場群

▲屋外の工場群

▲工場の裏にあるグランド



▲名工ミニ列伝



▲岡部静男さんと工場での椅子製作業

▲淡路年春さんと工場での椅子張り作業



▲土屋順道さんと工場での塗装作業

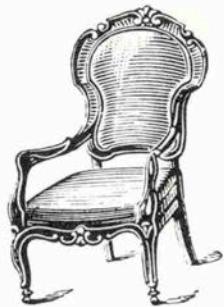


土屋順道（土屋塗装工芸社）昭和四十五年に塗装で労働大臣賞を受与される。大正十五年以来、塗装一筋に生きてきた。昭和十三年に独立。応接セット、婚礼家具、室内塗装など木工塗装全般を扱い、ほかに塗装を手掛けた。土屋さんが求めるのは木の底から出てくる味。家具の精神、美しさ。それは、オートメーションでは決して得られない。自分の手で最初から最後までつくるところから生まれる。仕事にかかるとき、常にこれが初めてやる仕事だと自分にいきかせることによって、自分とのなれ合いをさけると語る。そこに職人としての厳しさがある。難しい仕事ほど職人としての生きがいがあり、速くスムースにことが運ぶということだ。金日成首相の六十年の誕生日に朝鮮総連兵庫県連の要請で応接セットを贈った。土屋さんは今六十歳。まだまだこれからだと語る。

岡部静男（岡部製作所）昭和四十七年に椅子の木地で労働大臣賞を受与される。大正十二年にこの道に入り昭和十二年に独立。椅子製作で最も難しいのは型をつくることだ。10分の1の設計図を現寸に直すところから作業が始まる。角度、掛け心地、強度を考慮した「加減」が要求される。カンに頼るところもあるとさりげなくいうところにこの道五十年の重みを感じる。「家具だけはいいものを作つて、孫末代まで使うようにすることですね。私は一代でつぶれるような椅子は絶対に作りませんね」。何度も張り替えのできる椅子しかつくりないといふ。そこに岡部さんの自負が伺える。「ひとりでどんなものでもこなすこと。それが本当の職人だ。一つのことしかできないのはただの職工だ」と、若い人に對する岡部さんの態度は常に厳しい。

淡路年春（淡路年春製作所）昭和四十七年に椅子張りで労働大臣賞を受与される。大正十五年、東京で徒弟として椅子張り加工を始め、昭和十一年、神戸で独立。東京での修業時代には、国会議事堂や各大使館の椅子張りをやつたが、それがいい勉強になつた。神戸では最初船舶のシートを手掛け、戦後直ぐにはタイ国へ賠償として贈る汽車のシートも手掛けた。昭和二十二年、天皇の玉津寮行幸のときには便殿用の椅子を製作寄贈した。そのときの兵庫県民生部からの感謝状が淡路さんの誇りの一つだ。椅子張りで一番難しいのはスプリングの配置と組立。設計に基づき、注文した人の好みを加味し、その人の体重に合つた柔らかさと座り心地のよさをカンで計算してつくっていく。そこに名工といわれる淡路さんの面目があるのだ。

特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店



創造に全力投球

入船株式会社

灘区友田町五丁目二の二 〔八五一一三一九一（代）〕

第二次大戦後の昭和22年、戦災で被害をうけた家屋のために営繩の大工を中心にはじめたのが最初で、その頃は別注家具の設計、製作が主力だった。しかし10年前から既製家具が普及しはじめたので、家具造りも最初から住宅の設計においてこまれたビルトイン・ファニチャーフ（つくりつけ家具）が多くなり、イリフネの仕事も住宅、事務所、店舗などのトータルインテリアに力がそそがれるようになってきた。

現在は商業空間、住居空間、職場空間の創造に総合的にとりくんでいるだけあって、飲食店、物品販売店、レジャー関係施設、学校、銀行、一般のオフィス、医療施設、さらに教会のインテリアまで手がけるというふうに、仕事の幅は大変広い。しかし主力は店舗づくりで地域としては京阪神が多いが、西播、滋賀、和歌山方面、さらに名古屋や関東地方にも仕事をひろげ、二年前に東京に出張所をおくようになった。設計から施工までのすべてのプロセスにイリフネの創造力を結集して全力を投球する。

「一つ一つの作品にそれぞれの思い出や苦労がありますね。幸い、今までほどなたにも非常に喜んでいただいている」と社長の小泉進吉さん。この夏からは各メーカーの現物を集めた「サンプルショールーム」をつくり、店づくりをしたい人たちのためのサービスに力を入れるという。

▲イリフネの社屋外観

▲ショールームに展示された美しい家具

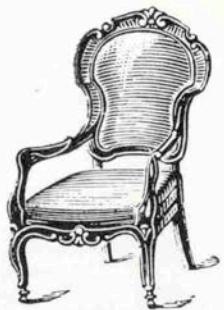
▲機械と手作業による家具づくり



母娘つれそつて品定め

神戸家具 蓼原区磯上通八一九

電二五一一〇七二二



三宮にある神戸家具のビル、八階まで、のべ二六四〇畳のショールームにカーテン、カーペットなどインテリアの小物から応接セットまで、住生活のあらゆる商品が陳列されている。その量と種類がすごい。見て回るだけで楽しいからと、わざわざ出向いて半日かけてこのビルを昇った女性もいたとか。さまざまの家具はマイホームの甘い夢をふくらませてくれる。

洋家具専門店が多い神戸で、比較的新しい神戸家具は洋家具だけでなく和家具、それも最近売るのが難しいといわれる純然たる和家具に力を入れている。高級家具をおもに、舶来家具も一般的な実用家具も揃えるこの店、人間の生活を大切に考え、インテリアを楽しめるものとしての家具を追求してきた。西洋化、コンパクト化する暮らしに対応し、今はマンション住い、団地生活のためのユニット家具を開発している。婚礼家具が主力であるが、値うちのある、いいものを売りたいと考えてきた。それにしても家具の高いこと！「いや、家具は一生のものだから、着るものや車のことを考えるところとも高くないでしょう。実際安いくらいのものですよ」そうかもしれない。そういえばそうだな。結婚するとさすがに神戸家具で婚礼家具を揃えた人が、何年かたって子供のための二段ベッドを買いにみえたり、店にも母娘連れだって品物を選ぶ姿が目につく、そんな店である。

▲豪華な応接セットがいくつも

▲私たちがお客様のご相談を承ります

▲八階までショールーム（国際会館南・神戸家具全景）



特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店

伝統のパイオニア精神

不二屋 生田区三宮町三一五 番三九一一〇五三五

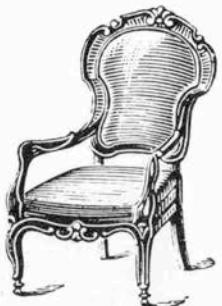


明治八年創業、神戸開港当時から市内に住みついた西洋人の為の家具を造り始めた真木製作所が、現在の不二屋の前身である。以来、得意客には英国人が多く、重厚な中にも優雅な味わいを持つ英國調「スタイル家具」の伝統は、今も不二屋の製品を代表する手作り高級家具にそのまま受け継がれている。一世紀にもなる不二屋の歴史は、時代の遷移とともに段階的に発展するが、まだ日本の鎖国時代、瀬戸内海の塩飽諸島で幕府から御朱印貿易の許可を得、自ら船造りもしながら海外へ雄飛していった、その祖先の進取の気性と木工技術が今まで生き続けている。以来阪神間の外人、富豪得意先とする別注家具専門店として戦後まで、これが不二屋の基礎の時代である。昭和三三年、第一回全国優良家具展で通商産業大臣賞受賞、吉田友一前社長が神戸市の嘱託としてアメリカで創作家具を展示ワシントン芸術家協会賞を受賞、全国にも海外にも知つてもらおうと広く市場の開拓を始める。四七年本格的総合的なインテリア・サロン「マープル不二屋」を大阪、梅田に設置、今年秋には東京の最高級インテリア・ショップ「ザアラ麻布」に進出と、売場をさらに広げている。手作り家具のいい職人さんを育てるこことに力を入れている不二屋だが、手間ひま構わず昔ながらの伝統を守るためにも、同時に量産企画品の分野でその技術を生した事業をするという積極さがこの店の強さであろう。

①木工センターにある工場

②トアロードの不二屋ショールーム





船舶装飾の腕が生きる

株式会社 三上工作所

生田区三宮町二丁目三一 三三三一一四八〇八

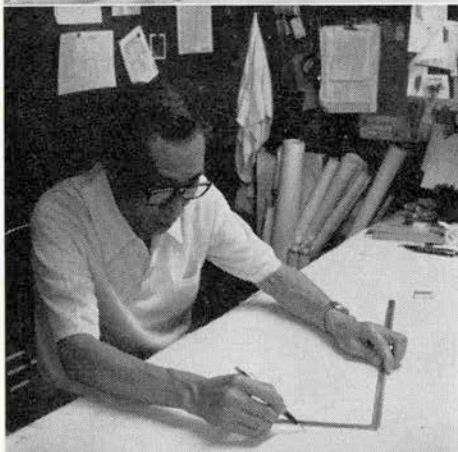
戦時に独立開業し、初めは船舶装備を主体とした店であり、また需要に応じて生活必需品的な家具を作ってきた。現在はデパートや銀行の店内装飾の設計施工を中心とし、船舶装飾の腕を生かしてモダンなインテリア・デコレートがなされている。建築士の資格を持つ営業マンたちもヨーロッパに出かけ、ヨーロッパの空気に触れ何かをつかんで神戸に帰ってくる。彼らの生みだす家具にクラシカルな持ち味の中にモダンでアカぬけたセンスがただようのも当然のことだ。三宮町二丁目の店には、輸入西欧家具をはじめ、葺合区の工作部で作られた手作りの家具がならべられヨーロッパの気品が感じられる。また専務がヨーロッパで写したカラー風景写真も店内に飾られているが、写真家顔だけの素晴らしいものである。

一つ一つ手作りの家具だけに手の入れようはきりがなく、また、職人さんの謙虚な仕事に対する姿勢から新鮮な家具が生まれてくる。「この仕事が好きでやっている人ばかりで、家具作りといふものは、常に新しい仕事であるので最高のものを追求していく」という態度でやっており、このごろはやりの人間疎外なんて全く関係ありませんね」との副社長島さんのことば。なるほどこんなところから責任ある家具が生みだされてくるのであろう。

三宮町の店舗

画面をかく工作部の山本さん

工作部の職人さん



バットをつくった頃もある

富屋 生田区元町一丁目四一 三三一—二〇九八



富屋の歴史は大正十二年、トアーロードに店を開きした大石良蔵商店に始まるが、良蔵さん自身、店をもつまでに二十年ほど家具店で働いていたので、かれこれ、七十年の歴史になろうか。当時の得意さんは、居留地の外国人、官庁、銀行、商社、それに阪神間の金持ち連中だが、主力は銀行、商社の営繩。扱っていたのは洋家具の他、カーテン、カーペットなどインテリア全般にわたっていたそうである。現在は大石敬蔵・孝さん親子の代となり、手造りの家具がセールスポイント。孝さんの話を聞くと「うちの家具はデザインの変更が少ないんです。十五年このかた変えないですよ。だから、お客さまとしては一度に買われなくとも十年計画でお買いになれるわけですね。それと企画もの。他の店で椅子をつくっているのなら、うちではそれに合ったテーブルをつくる」戦後すぐには売るものがなくて、職業野球用のバットを店頭に並べていたところ、五十本が売れた。ところが、いざ試合で使うと全部折れてしまったという話も今だからこそ笑える。最近の傾向はときくと、若い層に大いに受けているらしく、婚約が決まる二三人づれで店を訪れ、何しろ二DKとかで狭いものだから、少しづつ買いたして行く人たちが多いとか。とにかく、お客様の手許へ届いたらすぐ使える状態にしておくことですよ。目に見えない個所の埃も綺麗に取ってね……と語る。これこそ家具店の良心だろう。魚崎に倉庫、住吉に工場がある。

◀手づくり家具の並ぶ富屋の明るいショールーム

◀「洋風家具の発祥の地」の掲げた富屋の自負がある

隆さん



◀掲げたはさんで敬蔵さん(左)、隆さん

特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店

伝統を生かした家具を

河南工芸社

生田区三宮町二丁目一八〇（トーアロード）

（三三二一九九二）

センター街の西入口の南、トーアロードに面した所にあるのが河南工芸社。伊藤博文が兵庫県初代知事をしていた頃、現社長河南忠雄氏の祖父さんが家具づくりを始め、父の河南忠吉氏が明治40年に家具店を開いたというからこの店は神戸で最も古い家具店の一つだ。三代目を継ぐ河南さんは終戦後いち早くヨーロッパへ家具づくりの視察に飛び、デザインの研究、資料の収集などに力を入れて神戸の家具を海外へ輸出した。

「日本の家具の品質やデザインは欧米に負けないですよ。品質やデザインでクレームをうけたことは一度もありません。もう欧米のものを直似する時代は過ぎて、家具を室内全体のインテリアとして総合的に考えていくようになりました。つまり家具と室内との調和が大切なんですね。手づくりの技術はすぐれていますので、このすぐれた技術と良いデザインをミックスさせていくことが今後の課題でしょう」

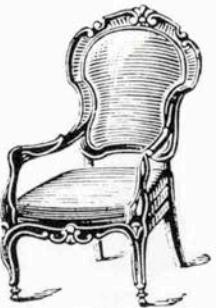
河南工芸社では応接セットを中心に造っているが、一昔前は七割が店売りで三割が別注だったが、最近は高級少量生産に追いこまれ、インテリアを総合的に扱う仕事が七割近くを占めるようになつてきた。

機械生産が増えてきたとはいえ、家具づくりはやはりすぐれた手づくりの技術とよいデザインがものをいう。長い間にわたってすぐれた家具づくりに力を入れてきた河南工芸社は神戸を代表する家具店の一つといえよう。

▲店内の応接セット

▲アロードに面した河南工芸社

◆何でもあります。お気軽にどうぞ。



特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店

外人さんも多いです

佐々木商會 生田区中山手通一一一八 二四一―三三三二

中山手の宮水コーヒー「にしむら」の西側のゆるやかな坂道を北へ登ったところにあるこの店、お客様の七十五パーセントが外国人だという。一般家庭の応接間の家具ばかりでなく、外人商社の役員室や応接間の椅子やテーブルを作っている。

日本人、外国人ともオーバードックスで無難なデザインを好むけれども、一般に日本人の部屋は残念ながら家具と部屋とのバランスが良くない。部屋いっぱいに、しかも背丈の高い家具をならべ、やたら空間を少なくしてしまう。その点外国人はすぐれていて、部屋の感じにあう椅子等を配置し空間のある部屋を作り出す。この店ではこのような一般的なものの中に、時に、奇抜な日本人には考えつかないような外国人特有の感覚の注文もある。例えばイス人のお客様で自宅の応接間の壁を黒一色に塗りつぶし、その中に真白な家具を配置する感覚は、日本人にはあまりみられないもの。しかしこのような注文を受けた場合、完成するまでの不安も大きいが、完成した時には、家具に限らずクリエイトする人たち共通の何ともいえない喜びがあると御主人はいう。

神戸らしい洗練された感覚で勝負するこの店、お客様の車の色や奥さんの服の色などから完全にマッチする家具を創り出してくれる。

▲中山手二丁目の店

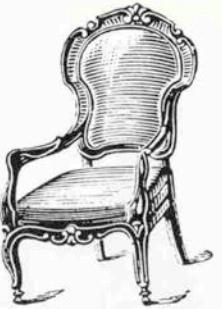
▲モデル製作したいすもみえる店内

▲お客様との応待に忙しい御主人



何でも造ります

(株)たかねや 工場 乗水区多聞町小東山九七五の三五
七〇六一五三三五



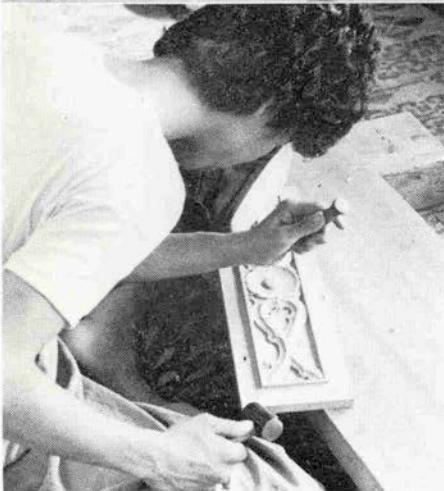
垂水駅前からバスで二〇分、神戸木工センターを訪れる「たかねや」のひときわ大きな工場が西の端にあつた。家具づくりの工程を見るのは初めてなので物珍し気にキヨロキヨロ見回していると、専務の芳中栄三さんが一つ一つの家具を手にとりながらいろいろと説明してくれる。ここでは洋服ダンスや三面鏡などの収納家具が主として造られているが、他に書斎家具、食堂家具から玄関の駄下箱、スリッパ入れ、電話台、そしてバーのカウンターにいたるまで、ありとあらゆる小物類まで造っているのはここだけという。そして兵庫県の外に神戸の家具を持ち出したのは「たかねや」が初めてというだけあって、西武、阪神、まつやま、名鉄、高島屋、丸栄など多くのデパートでたかねやの家具が売られている。

「神戸の家具はどこでもその店の看板商品になつてますね。うちの家具は彫刻から金具まですべてオリジナルなデザインです。それぞれのお店にはそれぞれ独特なスタイルがあつて、うちでは主に桜材、マボガニー材を使つて造ります」といわれて完成品をみると、赤味がかつた色合いが何ともいえないほどに美しい。洋服ダンスで組立に10~12日、完成までに一ヶ月かかるが、細かい手づくりの作業が多いので道具類も多種多様。ただ彫刻をほる人がほとんどなくなったので、優秀な職人を確保するのにことも苦労しているようだ。

◀手づくり家具の魅力はここに



◀完成した美しい椅子



◀手づくり家具の魅力はここに

特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店



モダン神戸の代表選手

永田良介商店 生田区三宮町三丁目大丸前 ■三九一—三七三七

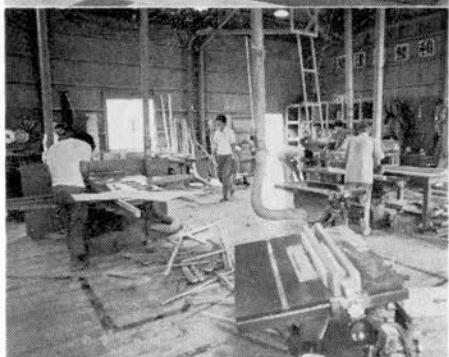
創業は明治五年。現在の大丸近辺が居留地の頃、初代の永田さんは英國商社に出入していた。外人達がたずさえてきた家具を帰国時に売って行くため、メリケン波止場に古物市ワイヤーマールが開かれ、片言で英語がしゃべれる永田さんは、帰国の外人の家具を預り、売って送金してあげたのが商売はじめ。家具の修理のために、港町の優秀な船大工に洋家具の研究をさせて、いよいよ歐風御指物処『永田良介商店』の基礎づくりがスタート。これは「神戸の家具」のはじめ物語にもなる。常に勉強を怠らず世界に目を向けた、二代目、三代目。そして四代目の永田良一郎さんが昭和の店づくりを受け継いで今にいたっている。

大丸前のこのお店はゆったりと広い。応接セット、花嫁家具、ロッキングチェアなどにスリッパなど小物、じゅうたんなどが並んでいる。それでも現在は品不足。オーダーすると二カ月と三カ月首を長くして待たねばならない。イライラしても手づくり品はどうしようもない。そこが神戸商品の真髄とでもいおうか。まあ待つておくんなはれ！四代目は悠々たるもの。欧風家具の伝統をふまえて日本風にアレンジしたことが水田の家具の特色で親子三代続けて持っているという神戸っ子が多いということにも品質の良さで売っているこの店の自信がある。「神戸の家具」の名を日本中にとどろかせ、モダン神戸の代表選手の面目躍如たるもののがこの店にある。

▲大丸前のお店、堂々たるたたづまいです

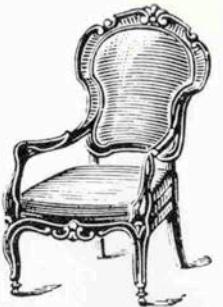
▲工場の中は活気があふれています

▲もう少しで完成します。定評あるタンス



昔懐かし竹製スプリング

株式会社 永和商会 生田区栄町通三丁目六 番三三一一四〇八七



永和商会の代表取締役、曾木明さんはこの道四十五年のベテラン。昔は百貨店に家具を卸していたこともあつたが、現在は店舗の設計、施工を手がけている。店舗といつても飲食関係ではなく物品販売店が主力で、現場の工事は外注に出している。店舗デザインの変遷は一口でいえないということだが、商店建築のあり方そのものが変わってきたように、デザインの方もそのときどきの設計者の感じ方によつて変つて来ているのだろう。苦労話はと尋ねると、一つ一つ精魂込めてつくつているのだから一つ一つが苦労の連続ですねとしごくごもつともな返事。戦前、戦中は資材の面で苦勞が多くたらしく、たとえば、戦争中には奢侈品が一切ご法度になつたのだが、椅子に使用するスプリングも禁止されたとかで、考案されたのが竹を加工してつくつた擬似スプリング。ところが何しろ耐久力がないものだから、華奢な人ならいいけれど、肥った人がドスンと腰をかけると、とたんにバリバリ。接着剤にしても昔はニカワが主力で、色々と苦勞があつたそうだが、最近は非常によくなり作業もしやすくなつてゐるそうだ。近ごろ気になることがある。それは耐火規制との兼ね合い。店舗が大きくなるにつれて、次々と規制が増え、店の持ち味を出すべく設計しても計画通り設営できぬこともあるようだ。耐火性が強く、しかも安く手に入る資材の開発が今一番必要じゃないでしょうか、という曾木さんの話である。

▲ショールームには出番を持つ家具が
▲永和商会設計施工の扇月堂さんちか店

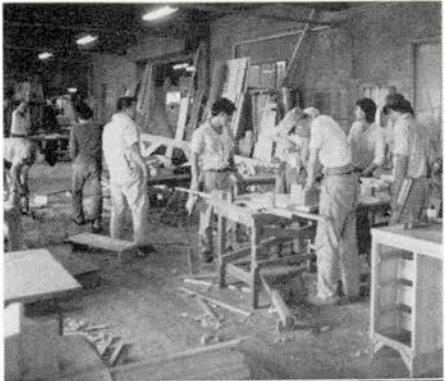




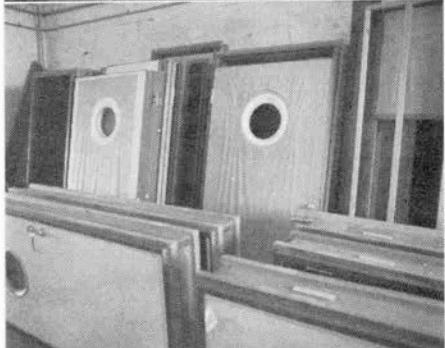
快適な船旅のために

谷垣工業株式会社

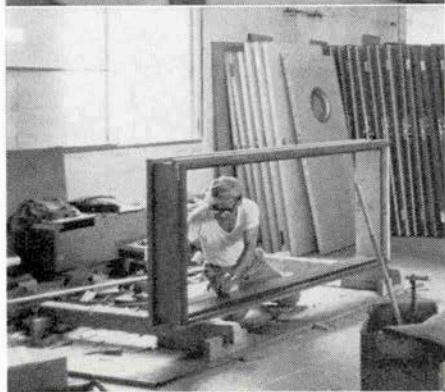
垂水区多聞町小束山九七五一三五
神戸木工センター内 770-6119五六



◀熱気のこもる二階の作業場



◀船舶への取り付けを待つのみ



◀快適な船旅ができるように心を込めて（三階）

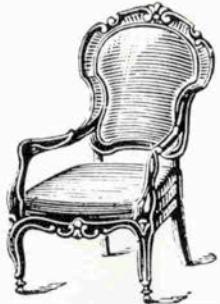
谷垣工業は船舶木製装製作工事で知られているが、昭和初年に現社長の谷垣弘さんの先代が創業したときには一般の家具を扱っていて、船舶装備は昭和二十三年からになる。四十二年から神戸木工センター内での作業を開始。生産品目は、寝台、ワードローブ、チェスト、サイドボード、ソファーなど船員の居住区全般にわたってい、船種としては、貨物船、客船、フェリー、タンカーと多岐にわたるが、外国船の方が多い。三菱造船所の船舶を扱い、新造船はもとより改修工事もやり、工場で生産した機材を船舶に運び込んで組立て、仕上げをやる。この二十年間に三百艘程の船を手掛けているが、一艘あたりの製作時間は貨物船の場合、現場で一万時間、つごう二万時間はかかるということだ。最近の傾向としては、一時節約ムードだった裝備も、また、豪華になってきたこと。それと、以前は船員の階級によって部屋のつくりにかなりの差があつたのが、次第になくなってきたこと。それも、上級船員は余り変わらないが、下級船員の方がよくなつて來ているということだ。たとえば、昔なら下級船員の場合三、四人で一部屋だったのが、今では一人一部屋が普通。船も昔は鉄で接合していたので三、四十年はもつたのに今じゃ溶接のため十年しかもたないとかいうことである。ところで、最も苦労するのが、なくて、しかも、いかに豪華にみせるかということ。木材の高騰のおりを受けて価格面での苦労は絶えない。

商売は悠長に

丸尾工作所

葺合区旭通五—四

電二二一一〇九六



家具の仕事に入つてほゞ60年、大正15年に神戸家具師組合理事をつとめて以来、現在は全国家具組合連合会副会长、近畿家具連盟会長、兵庫県家具組合連合会会长などを兼任「お金にもならない」その仕事で忙しくて、という社長の丸尾英一さん。神戸木工センターの設立発起人、設立委員長今は顧問でもある。

「忙しくて家内にまかせっぱなし」だという店、表には草花や植木の鉢が並び、店内には水が落ち鯉の泳ぐ池などもあってまさに悠長。「使いこむほど味が出て何年たつてもあきのこないクラシック家具」を長年つくり続け、40年前の同じ本箱を今でも造っているその仕事の心意気に通じる店の構えだ。

最近新しくなったばかりのコスモポリタン。明るくてオーブンな感じがアメリカ風な店。元町1番街の元町バーザーは通りに面した二階の窓がシャレって、重厚なヨーロピアン調。いずれも丸尾工作所の設計施工である。終戦直後には三宮や元町の店をたくさん手がけ、今でも見積りなどしないでまかせられるほどの信頼を得ている。機械で量産できない、丹精こめた手による神戸の洋家具の値うちと苦労をよく知る丸尾さんが、その伝統を「尊い」というとき、その言葉の重さ。職人が、日々の小遣いだけで何年も修業を積んだという、今はもう伝説みたいなそんな時代だけがこの伝統を生んだわけではないはず。いかにもゆったりとしたこの店の商売が貴重にみえた。

▲「商売以外のことばからして……」と丸尾社長さん。

▲店内も店の構えもどこかゆったりとしています。



特集 神戸の家具③ 手づくり家具と出会える店

木も生き物です

伊藤家具店 生田区北長狭通二一九一一 電三三一一〇四三二

最近再びクローズアップされだしたトアロードにあるこの店、トアロードの中でも今や数少ない昔からある店の一つ。トアロードも都市計画によつて美しく模様替えされつつあり、この店も新しく美しい店構えになり、昔の面影が消えぬしい感もあるが、店内狭しとならべられた家具の香りがただようには非常に優雅な気分にさせられる。

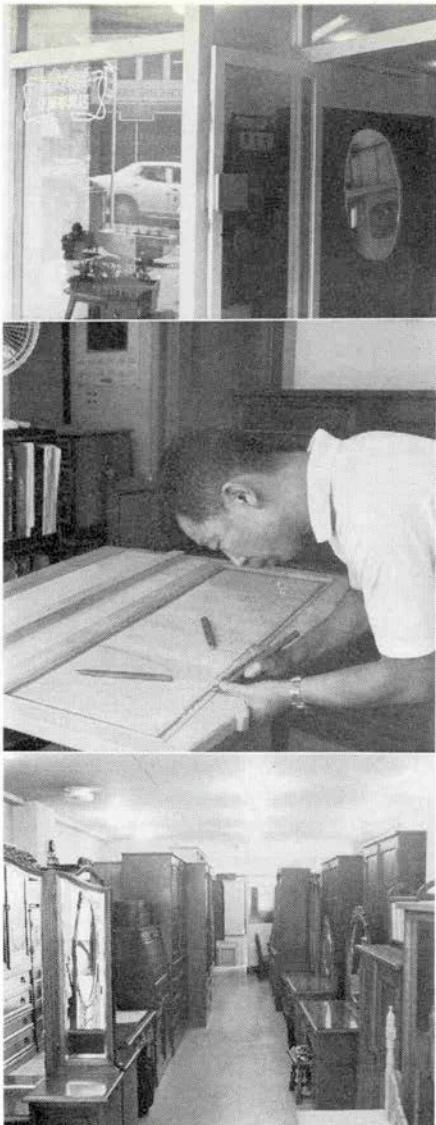
ここのお主人、といつても弟さんと二人でやつてゐるが、いたつてひかえめで温厚な紳士。ある意味では、非常に商売つ氣のない人。それもそのはず御主人のお父さん、つまり先代は椅子作りに活躍している。そのような血をひく御主人も店の奥でコツコツのみを握つてゐる。仕事が好きでやつてるので苦勞も感じないという御主人、良いものを安くという信念で手を加えすぎるぐらいに完成品を創り出していくのみを持つ手には際限がない。

お客様の依頼で修理に出かけることがあるが、家具の手入れの仕方でその人柄が良くわかるという。家具も人間と同じように快適な状態におくことが大切であり、愛着をもつて使用してゐる人をみると嬉しくなるそうだ。先代の職人気質を十分に受け継いでいる。「木も生き物です」という御主人の言葉が印象に残る。

◀モダンな感じのウインドウ

◀奥でベッドの背を彫る御主人

◀木の香りでいっぱいの店内



特集

神戸の家具③

手づくり家具と出合える店

お店作りの専門店

明和 生田区三宮町二二二五 ⑤三二一—五五五

戦後開業して事務所の家具を作っていたが、事務所の机、椅子にスチール製が浸透してきたために、昭和三十年頃から店舗企画設計施工に切り替えてきた。ステーションデパートやレストラン、喫茶店の店内改装などを手がけた店としてはかなり早いほう。

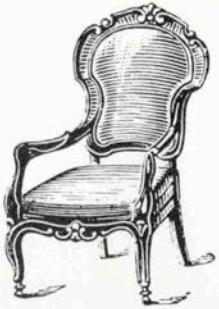
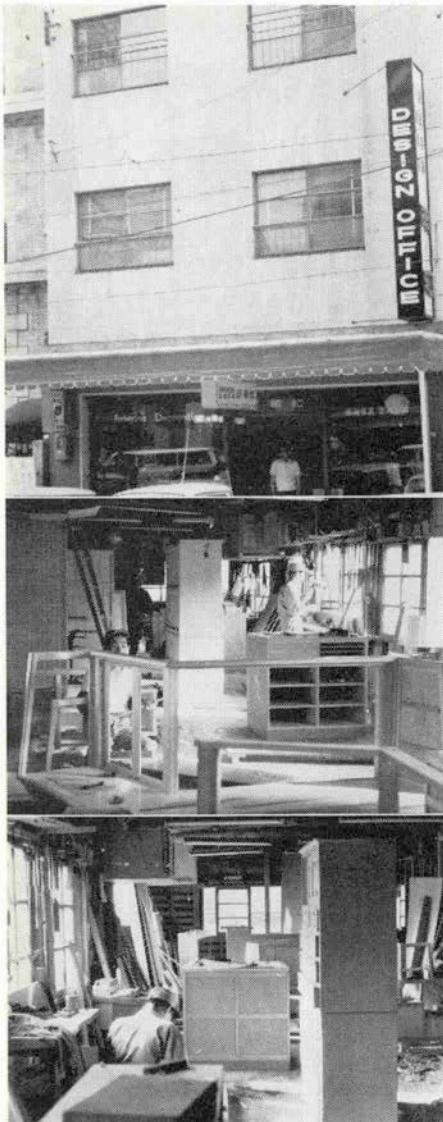
「使い捨ての時代、買い替えの時代といわれるが、家具だけは良いものを買いたい」と社長は忠告してくれる。良いものは永もちし、愛着が湧き、飽きがこないので結局得をする。安物買ひの錢失ひは家具の場合にも通用するらしい。「とにかく使ってみて下さい」ということで多少値がはつても良いものを選んでみると、最後には、やっぱり良かったとの感想がお客様の口から思わず出る。

「お店作りの専門店」というキヤッチフレーズの店、自信ある仕事をする。仕事だけはなめてかかるナという社長の信念。いかげんな気のゆるんだ仕事をすると必ず失敗するという。仕事は必ず相手があるもの、仕事をするものの喜びは、その相手が喜んでくれることです。「あの仕事ではお客様が喜んでくれて……」という時の社長の微笑みは非常に若々しい表情である。設計施工者として開店パーティに招待されるが、そんな時その仕事に携わった職人たち全部をつれて参加するそだ。この仕事はみんなの力でやったのですと。

▲三宮町の店舗

▲陳列ケース本地製作中

▲箱物製作中の工場



慌てて開店すると損です

株式会社 泰平木工所

生田区三宮町二丁目六番三九一—四〇〇四

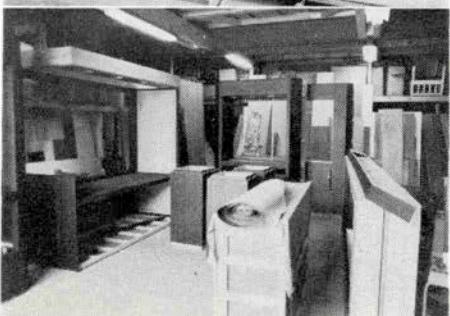
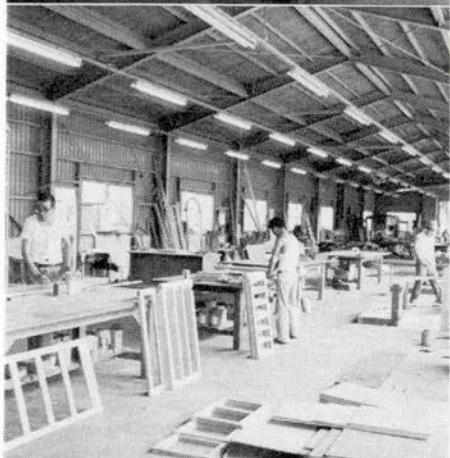


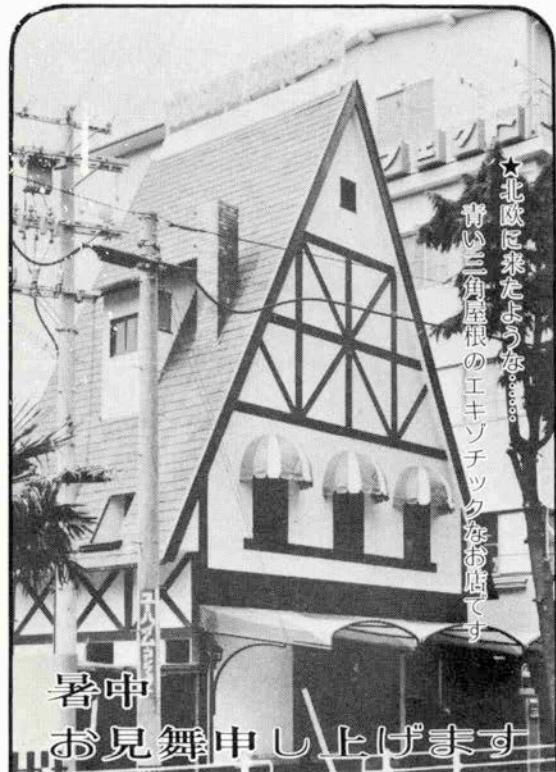
泰平木工所は、代表取締役の奥山茂次さんによって、昭和二十一年に創立されたが、奥山さん自身それまでに十年間程（途中戦争で空白はあったが）ある家具店で働いていた。当所から別注による店舗やホテルの内装工事と、それともなう取付家具を手がけてきているが、現在、店舗としては飲食関係が多いとのことだ。最も苦労するのはデザイン。何しろみる人によって受け取り方が違ってくるのだから、こちらでいいと考えても、先方が気に入らなかつたりすることも多い。最近の傾向としては、実質面よりも、装飾面に凝る店が増えているそうだ。内装で最も重点を置くのは調和ということ。だが、ここ二、三年耐火の面から資材の規制が特に厳しくなり、たとえば、今手がけている新幹線岡山駅の地下街では、店舗の側面に本部を使つてはいけない、柱は鉄骨でなければいけないなど規制があるので、店全体の調和をとるのに苦労が多いという。それに、と奥山さんは続ける。「よくあることですが、何月何日までに完成してくれ、徹夜でやってくれといわれるんですね。だけど、私にいわせば、一週間早く開店して、一週間分の売り上げをあげるよりは、日数をかけてでも完成を人念にする方が長い目でみれば余程得なんですがね」。工場の職人さんはこの道一筋の職人気質の人も多く、請け負つた以上、工賃の如何に関わらず納得の行く仕事をやるということが、ここに神戸の家具職人の面目がある。

▲三宮にある営業所

▲兵庫区にある工場

▲倉庫には様々な家具が出番を待っている





新熊内店（本社工場東隣）



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

本社・工場、熊内店■神戸市東灘区熊内町1-8-23(市立美術館東隣) ☎ 221-1164

三宮センター街本店■神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) ☎ 331-2421

さんちか店、神戸大丸、そごう、阪急店、三越、元町店

こんにちは赤ちゃん



菅根征一郎くん／芦屋市川西町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 **柿沼産婦人科**



芦屋市大沢町1番18号

国道芦屋川電停東50米(明治生命南)

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

白山画廊



初田
秀個展の会場風景

8月24日～30日 岡田淳個展
9月2日～8日 金曜日の集合展
(元永定正グループ展)

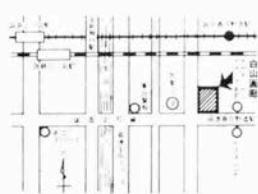
新人のために無料開放します

白山画廊では広く新人のアーチストのために、画廊を無料開放いたします。

お申込みの上、津高和一、足立巻一、三浦照子さんらの協議によって選考させていただきます。

《白山画廊》

兵庫県芦屋市吾妻通3丁目
1-8 ナカモトビル8F
神戸
(078)251-8251
(大代表)



刀剣 古美術 骨董 書画



32間節甲付
締糸一枚胸朱具足
三五〇万円

鑑定 買入
研 白鞘 拙 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古骨

剣美
術董

円650

TEL078-351-0081

元町美術

★神戸の催し物8月ご案内

（音楽）

★上月晃の「波止場の花と渡り鳥」

3日（土）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

4日（日）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

5日（月）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

6日（火）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

7日（水）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

8日（木）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

9日（金）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

10日（土）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

11日（日）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

12日（月）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

13日（火）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

14日（水）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

15日（木）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

16日（金）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

17日（土）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

18日（日）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

19日（月）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

20日（火）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

21日（水）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

22日（木）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

23日（金）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

24日（土）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

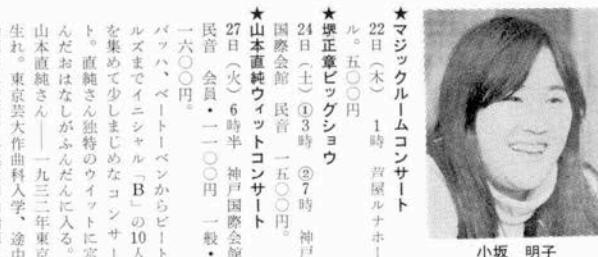
25日（日）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

26日（月）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

27日（火）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

28日（水）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円

29日（木）6時半 神戸文化大ホール 民音 会員・一般・二三〇円



小坂 明子

■国際会館 S・一二〇円 A・一〇〇円 B・二五〇円

○円 C・一〇〇円 原作／五道亭内朝 脚色／大西信行 演

出／成田市鴻 出演／杉村春子・北村和夫・大出俊ほか

開にうかぶ灯籠に亡霊の情念がゆ

一部は務氏指揮のニューソニックとお父さんとの親子リサイタル。オーケストラの演奏。ゲスト・アンサンブルをドラマチックに

田敏夫。二部は娘の部で、彈き語りが聞ける。自作のピアノ協奏曲「あなた」も聞きもの。

山田純彦他は流れる歌と踊りの可憐な少女と愛を背負う男の物語。

★あべ 静江リサイタル

4日（日）①11時半 ②2時半

神戸文化大ホール S・一八〇円 A・一五〇円

B・一〇〇円 ○円

■マジックルームコンサート

22日（木）1時 舞台ルナホー

ル・五〇〇円

★堀正章ピックショウ

24日（土）①3時 ②7時 神戸国際会館

国際会館席（前売）四〇〇円（当）五〇〇円

○円 原作／次野翠平 演出／松浦竹男 出演／清川虹子・南利明

同時上演 柏原正一作演出／魚とねずみとお姫様。

★マジックルームコンサート

22日（木）1時 舞台ルナホー

ル・五〇〇円

★山本直純ウイットコントナー

27日（火）6時半 神戸国際会館

民音 会員・一般・一〇〇円

一般・一六〇円

★ニッティ・グリティ・ダートパンク

18日（日）6時半 神戸国際会館

A・一〇〇円 B・九〇〇円 ○円



清川虹子



南 利明

一ル A・二二〇〇円 B・一五〇〇円

○円 C・一〇〇〇円 原作／五道亭内朝 脚色／大西信行 演

出／成田市鴻 出演／杉村春子・北村和夫・大出俊ほか

開にうかぶ灯籠に亡霊の情念がゆ

一部は務氏指揮のニューソニックとお父さんとの親子リサイタル。オーケストラの演奏。ゲスト・アンサンブルをドラマチックに

田敏夫。二部は娘の部で、彈き語りが聞ける。自作のピアノ協奏曲「あなた」も聞きもの。

山田純彦他は流れる歌と踊りの可憐な少女と愛を背負う男の物語。

★あべ 静江リサイタル

4日（日）①11時半 ②2時半

神戸国際会館 S・一由

七〇〇円 A・一二〇〇円

自由席（前売）四〇〇円（当）五〇〇円

○円 原作／次野翠平 演出／松浦竹男 出演／清川虹子・南利明

同時上演 柏原正一作演出／魚とねずみとお姫様。

★馬鹿芸者／国際会館名作劇場

3日（土）②12月 ①11時半

神戸国際会館 S・一由

七〇〇円 A・一二〇〇円

自由席（前売）四〇〇円（当）五〇〇円

○円 原作／次野翠平 演出／松浦竹男 出演／清川虹子・南利明

同時上演 柏原正一作演出／魚とねずみとお姫様。

★馬鹿芸者／明治末期・博多の花柳界の馬鹿芸者と名乗る娘たち

がおり、芸人狂歌であつた。その後援者である山邊の旦那の

お廻敷で、馬鹿芸者と東京歌舞伎役者の中村高徳とのからみ。

「魚とねずみとお姫様」けんか友達の魚熊さんと八百花さん。魚熊

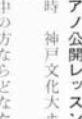
さんによくて美しい娘が八百花さんにならぬかと云ふ。それで求人広告を見てやつてくれ

るが、この二人どこかかわって

いる。さてどうなることか。



★



安川加寿子

ピアノを勉強中の方ならどなたでも出場のチャンスがあるシステムの公開レッスン

編集部より

6月号の「よしだたくろう」リサ

イタル御招待、多数のご応募のな

がら厳正抽選のうえ当選者にお

送り致しました。ありがとうございました

いたしました。なお当りサイン



牡丹灯籠 練習風景



牡丹灯籠 表演風景

★怪談牡丹灯籠 文学座公演

19日（月）1時半 神戸文化大ホール

一ル A・二二〇〇円 B・九〇〇円 ○円

62年から連続12回目の来日。

でした。